

■桜の季節！～春色ラベル特集～

お花見シーズンまっただ中！春色ラベルの焼酎を飲みながら、春を楽しんでみてはどうでしょう！？春季限定のものから、通年楽しめるものまで集めてみました♪



限定発売！



春季数量限定！

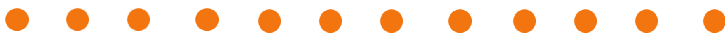


4月中旬発売

さつま赤五代
芋 25度
鹿児島県 山元酒造

白金乃露 紅
芋 25度
鹿児島県 白金酒造

赤猿スパークリング
芋(リキュール) 5度
鹿児島県 小正醸造



さくら白波
芋 25度
鹿児島県 薩摩酒造



なでしこ
麦 25度
長崎県 壱岐の蔵酒造



伊佐小町
芋 13度
鹿児島県 大口酒造

■トモちゃんコラム ～花見の起源～

この季節、桜の木の下で楽しそうに宴会をしている姿を多く目にします。このお花見、いつから楽しむようになったのでしょうか？

元々は奈良時代から平安時代頃に貴族たちの間で行われた花を見ながら歌を詠む会が花見の起源と言われてます。この頃の文化は、中国からの文化の影響を受けているので、桜よりも梅が好まれていたようです。

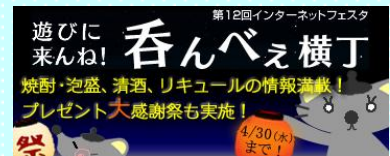
また、桜の語源には、「サ」が田の神様、「クラ」が神様の座る場所という意味があり、一般庶民は、豊作を願って桜の木の下でお供え物をしていたそうです。この二つの文化が合わさって、今日のような花見になったようです。

更に江戸時代、徳川吉宗が各地に桜の植樹を行っています。この時代、人々の生活は楽ではなく、放火が頻発し、家が密集していたため一度火事が起こると大火事になりました。そしてその騒ぎに乗じた泥棒が多かったようです。吉宗は桜の植樹により環境を整備し、桜の名所には飲食店などをひらかせ花見を奨励しました。庶民に花見という娯楽を与え、経済効果と治安をよくする狙いがあったようです。現在でも有名な、隅田川や御殿場、飛鳥山などの有名地は、この吉宗が植樹した桜によるものです。

■焼酎紀行HP更新情報 (2014年3月25日～4月1日)

□第12回インターネットフェスタ
遊びに来んね！呑んべえ横丁
開催中！

焼酎コラム「宵酔い帖」
読者投稿型「のんべえふとおと雑
記帳」など



□焼酎ニュース/蔵元だより

宮崎県 高千穂酒造、焼酎粕
リサイクルの取り組み「ほろ酔い
カンパチ



□焼酎ニュース/蔵元だより

沖縄県 比嘉酒造より、泡盛漬
け込み梅酒「梅人(うめん
ちゆ)」発売！



□焼酎ニュース/焼酎だより

【ヤマエ久野オリジナル】初心
者注意！濾過にこだわりぬいた
「にごり焼酎」限定発売！



焼酎紀行はコチラ

お酒は20歳になってから適量を！

ヤマエ久野株式会社